

令和7年度入試を振り返って

進路指導部

今年度で5回目となった大学入学共通テストは、1月18日(土)、19日(日)の2日間で実施されました。今回の共通テストから、高校の新学習指導要領に対応し、出題科目の再編や試験時間の延長・変更などいくつかの大きな変更がありました。

まず、「数学」「地理歴史・公民」で科目構成の大きな見直しが行われました。数学では、「数学Ⅰ」「数学Ⅰ、数学 A」以外が「数学Ⅱ、数学 B、数学 C」として1科目に再編されました。また、新教科として「情報」が追加されたことで、総数で6教科30科目から7教科21科目へと変更されました。試験時間についても「国語」は80分から90分へ、「数学②(数学Ⅱ、数学 B、数学 C)」が60分から70分へと変更されました。新たに始まった「情報」の60分を加えると、これまでより合計で80分、試験時間が延長されることになりました。

出題傾向に関しては前年度までの共通テストにおける「思考力・判断力・表現力を問う」傾向に大きな変化はなく、習得した知識を活用し、多くの「資料・表・グラフ・地図・写真・文章」を読み解き、必要な情報を自分の中で抽出・整理し、適切な解答を導く力が受験生たちに求められました。

今年度の共通テストでは「数学②」と「化学」で全国平均点が低くなりましたが、2年連続で10点程度アップした「国語」をはじめ、全体的にみると平均点は上昇し、8科目受験者における得点率8割以上の割合は、文系・理系ともに前年比150%前後にまで増加しました。

そのような状況の中、粘り強く学習に取り組んできた延高生は、多くの教科・科目で全国平均点を上回ることができました。共通テスト後も個別試験に向けた二次特編授業へ前向きに取り組む、国公立大学合格者158名(現役生154名、既卒生4名)という素晴らしい結果を残してくれました。D判定やE判定などの合格可能性があまり高くない状況であっても、「この大学で絶対に学びたい」という自分の思いを貫き、逆転合格を勝ち得た生徒も見受けられました。また、難関私立大学にも多くの生徒が合格するなど、県北の伝統校に相応しい有終の美を飾ってくれました。その一方、合格まであと一歩及ばなかった生徒の中には、安易な妥協をすることなく、「来年こそ」と決意新たに受験勉強を再開した生徒もいます。

延岡高校では入学時より、授業はもちろんのこと、希望制課外(今年度より「セミナー」と呼称変更)や校外模試、予備校講師による出前講義など、高い進路目標達成のために様々な取り組みを行っています。また、下校時刻ギリギリまで自習室や廊下などで自学自習に励む生徒や、個人添削の依頼や授業内容の質問のために頻繁に職員室へ足を運ぶ生徒を見かけることは、もはや本校の『風物詩』と言えるかもしれません。特に今年の卒業生については、放課後に友人らと数学や理科の難問に取り組んだり、歴史上の重要人物や英単語などに関する問題をクラスメートに出題するなど、各クラスに設置した移動式ホワイトボードをうまく活用していることが印象的でした。

卒業生たちの多くが「自分を信じる・先生たちを信じる」、「強い信念を持ち続ける・簡単に諦めない」、「計画的に学習する」など、後輩たちに様々なアドバイスを残して延高を巣立っていきました。これらは社会に出てからも大切になってくるものです。延高での学校生活を通して、これからの人生を自分らしく生き抜いていくために様々な能力を更に磨いていきましょう。